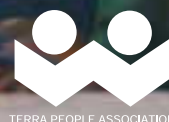


みんなのしあわせが  
私のしあわせに

Annual Activity Report / 2018.4 - 2019.3

# 2018年度年次報告書



認定NPO法人  
地球市民の会

TERRA PEOPLE ASSOCIATION

# 2018年度 活動のお礼とご挨拶

## 2018 年度の活動の振り返り

「SDGs 推進に向け、種を蒔いた年でした」

2015年に国連で採択されたSDGs（持続可能な開発目標）は、17のターゲット（課題や問題）を政府や企業だけでなく、個人でも2030年までに達成していくためのものです。

ここ近年、メディア関係でもよくこの横文字を目にするようになりました。

このSDGsが広がってきた背景は様々ありますが、社会問題が複雑化し、一つの団体や企業では問題解決が難しくなっています。社会問題解決のために、団体・個人で意識を変え、行動を起こす必要があるというところまできているということです。

当会がSDGsを推進することは、まさにこれまで行ってきた地球市民運動そのものであります。故・古賀武夫が進めてきた地球市民運動は、「世界中すべてのものの幸せを自分の幸せと感じられる人で溢れる社会づくり」を目指すものです。このSDGsのテーマである「誰ひとり取り残さない世界をつくる」は、地球市民運動と非常に親和性が高く、SDGsを推進することそのものが、地球市民運

動の推進に繋がってくると思っています。

36年前から故・古賀武夫が唱えてきた理念や活動にようやく世界が追いついてきたと言えるのではないのでしょうか。また、このSDGsという「共通言語」が生まれたことで、今後、官民連携がますます進み、1つの団体では解決できなかったことも解決の道ができるのではと期待をしています。そのため、会としてSDGsを推進し、様々な団体を繋げることで故・古賀武夫が目指していた社会の実現に繋がると思います。

昨年度は、シンポジウムなどでSDGs推進のきっかけの年となりました。昨年度、蒔いた種を育む2019年度の年になるかと思えます。2019年度も変わらずご支援をいただきますよう、宜しくお祈りいたします。

## 目次

- [P.01] 表紙
- [P.02] 2018年度 活動のお礼とご挨拶
- [P.05] 2018年度 事業一覧
- [P.06] 国内事業
- [P.08] タイ・スリランカ事業/奨学金事業
- [P.10] ミャンマー事業
- [P.16] 支援を受けたみなさんからの声
- [P.17] 2018年度 ~活動計算書・貸借対照表・監査報告~
- [P.19] 2019年度 活動方針
- [P.23] 2019年度 予算書・予算明細書
- [P.24] 私たちについて
- [P.25] 支援者の方々からの声
- [P.26] いろいろなご支援を紹介

## スタッフ一覧

### 《本部事務局》

#### 佐賀事務局



岩永清邦  
(事務局長)



廣瀬伸恵  
(事務局次長)



山路健造  
(タイ・スリランカ事業/広報担当)



諫山由紀子  
(ミャンマー事業担当)



江口恵美  
(会計担当)



秀島彩女  
(奨学金/国内事業担当)

### 《ミャンマー事務所》

#### ヤンゴン事務所



柴田京子  
(プロジェクトマネージャー)



マ・イーシー



会長 佐藤昭二

【癖組(くせぐみ)】

人間国宝であり、宮大工の故西岡常一さんが生前言われた言葉に、「建築は木の癖組である」と言われた、この木の癖に逆らって木組みをした場合、そこから弱さを露呈してくる。

一本の木においても弱い処と、強い処があり、その所々を知り尽くして建てた建築は法隆寺のように一千年以上も保つのでありましょう。私は人間の組織とは、正にこの癖組にあると思います。すなわち人間の持つ「気」の癖組であります。癖とはその人の個性であります、地球市民の

私たちは常に、お互いが相手の持つ個性を認め合い、活かし合い、そして一人の百歩ではなく、百人の一步で進みたいものであります。



理事長 山口久臣

【”遙かなるミャンマー”にて】

2019年2月中旬から再び、2週間ほど渡緬しました。目的は、当会のミャンマー事業の視察および調査でした。2003年から開始した本事業は現在、シャン州とチン州で展開しています。

ミャンマー事業の基本は有機農業を基本とした国際協力と地域開発であります。

思えば、1990年に初めてタイの東北部の田舎へ出向き、物・金の貧しさと云う状況を目の当たりにしながらもそこに暮らす人々の”心の豊かさ”に感動した体験が私のアジアとの付き合い

いの原点であります。

更には、最初は国際交流&国際協力と思って始まった活動も実は、その国、その地での”地域づくり”だったことに気付かされてきました。要は、グローバル(Global：世界的)は、ローカル(Local：地域的)と表裏一体だと云うことなのです。今改めて、グローカル(Global+Local)が不可欠の時代なのであります。

これからもご支援・ご鞭撻の程、どうぞよろしくお願い致します。

タウンジー事務所



鈴木亜香里  
(プロジェクトアドミニストレーター)



クン・タウン・ウイン



サイ・タウン・エ



クン・ゾー・ゾワ・マウン



マ・モー・モー・トゥエ



マ・キン・スエ・タイ

タンポジセンター



マ・ワー・ワー・ライン  
(センター長)



ウ・シェイン



ウ・ウイン・シュエ



ドー・キン・サン・ウ



クン・ゾー・タン

ナウンカセンター



クン・ゾー・アウン  
(センター長)



クン・タン・ウイン



クン・シュエ・トー

ミンダ事務所



神崎涼子  
(プロジェクトアドミニストレーター)



コ・マンリン

フィールドコーディネーター



ウ・ミョー・ミン



クン・ティッ・サン



クン・マウン・ヨー



マ・テー・ヌー・ピュ

ライレンピーセンター



ウ・ザベッタン  
(センター長)



ウ・ゾー・リン



マ・グンテイ



トゥライ・ゼ



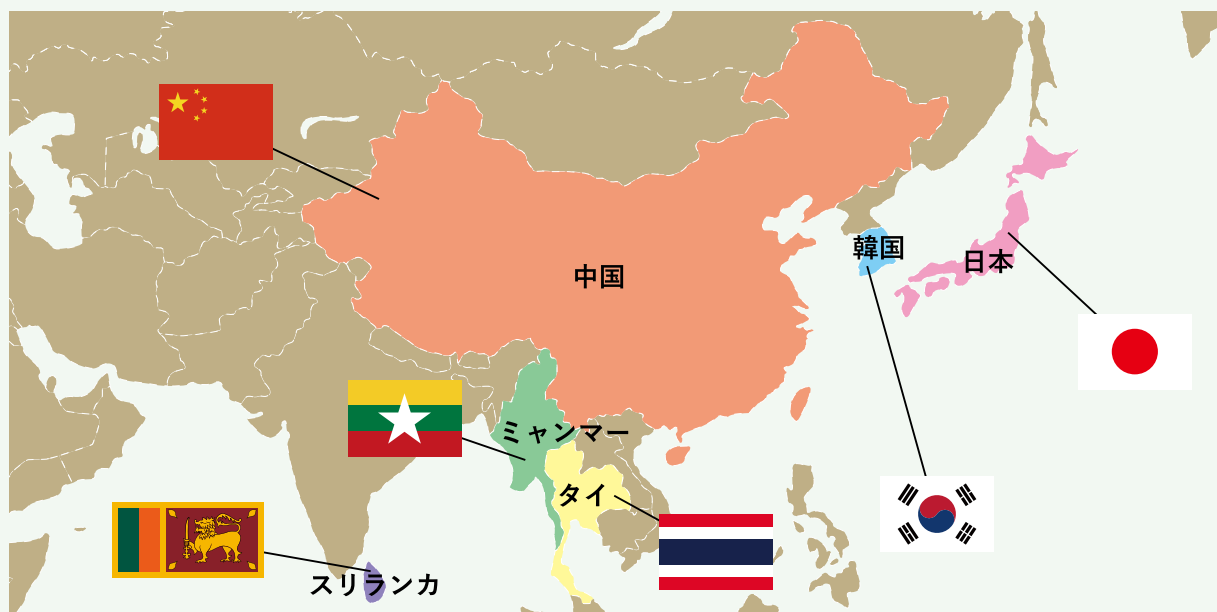
ウ・ピエラ



事業報告書  
Activity Report 2018

日本  
タイ  
スリランカ  
奨学金  
ミャンマー

# 2018年度事業一覧



	事業内容	実施日時	実施場所	従事者(人)	受益対象者の範囲、人数	支出額 (千円)
国内事業	中山間地域づくり事業	通年	吉野ヶ里町	2人	吉野ヶ里町、協力者延べ176名	956
	SDGs推進事業	1月	佐賀県内各所	2人	中国人大学生6名、韓国人大学生5名、協力者65名(日本人学生も含む)	3,409
	子どもの居場所づくり事業	通年	佐賀市内	2人	参加者延べ403名、協力者83名	88
	ふるさと納税(スリランカ事業、ミャンマーイベント、他事業、返礼品含む)	通年	全国	2人	寄付者571名	21,478
	その他(絆伝心、講師派遣事業、研修、イベント等)	通年	佐賀県内各所	2人	関係者421名、聴衆者2350名	625
	<b>小計</b>					
海外事業 タイ・スリランカ	奨学金支給	通年	スリランカ：サンガミッタ女子校 ミャンマー：タンボジ青少年育成センター・シャン州 ホッポン・シーサイン・ピンラウンタウンシップ	5人	スリランカ受給生30名 ミャンマー受給生86名	2,924
	タイ事業(Be Familyプロジェクト)	8月	佐賀県内各所	2人	タイ留学生7人 インドネシア留学生1人、協力者50人	699
	タイ事業(志学生プロジェクト)調査	10月	タイ・ナコーンシータンマラート県	2人		296
	スリランカ事業(カタランカ)	9月	佐賀県内各所、スリランカ・ゴール市	2人	スリランカ招へい7人 ホームステイ参加者30人、イベント参加者300人	567
	その他(ネットワーク設立支援事業、ぱーん・たわん)	通年	佐賀市、鳥栖市、鹿島市	1人	タイ関係者20人 イベント参加者80人、購入者50人	52
	<b>小計</b>					
海外事業 ミャンマー事業	ハトムギ栽培・加工事業	5月～	シャン州ニャウンシュエ郡タンボジ農業畜産研修センター	6人	ハトムギ栽培農家約100世帯とタンボジセンターのスタッフと高校生14名	2,000
	インレー湖湖畔緑化事業(緑の募金)	～6月	シャン州ニャウンシュエ郡ポーミヤ村、チェーポウコン村	3人	対象地域の住民(2村)約1,000名	994
	インレー湖湖畔緑化事業(地球環境日本基金)	通年	シャン州ニャウンシュエ郡チェーポウコン村、バインネゴン村	4人	対象地域の住民(2村)約900名	662
	インレー湖環境汚染調査事業(三井物産環境基金)	通年	シャン州 インレー湖	3人	インレー湖周辺住民160,000名	3,043
	ピンラウン給水設備整備事業(外務省 NGO 連携無償資金協力)	～9月	シャン州ピンラウン郡イェンミー区、シンタウン村、ティータリー村、ティンテック村、タウンレー村、ワービョン村	4人	対象地域の住民約13,000名	50,000
	ナウンカ農業用水給水設備整備事業(外務省 NGO 連携無償資金協力)	10月～	シャン州タウンジー郡ナウンカ地域	2人	対象地域の住民約2,000名	20,000
	ナウンタヤ給水整備事業(ゆうちょ財団)	通年	シャン州ピンラウン郡ナウンタヤ地域ティエユエ、ティエユウ村、バヤービュー村、ルエテック村、バシヤームーユエビュードウイン村	2人	対象地域の住民約2,700名	1,693
	フェアトレード商品化に向けた事前調査事業(NGO 福岡ネットワーク FUNN)	10月～3月	シャン州ニャウンシュエ郡、チン州ミンダ郡	6人	-	200
	ライレンピー農業研修センター建設事業(外務省 NGO 事業補助金)	10月～	チン州ミンダ郡ミンダ町、マトゥビー郡マトゥビー町、ライレンピー町	6人	対象地域の住民約23,000名	20,000
	ライレンピーアグロフォレストリー普及事業(緑の募金)	8月～	チン州マトゥビー郡ライレンピー町	6人	対象地域の住民(2村)約590名	8,500
	エタヤ小学校修繕(個人寄付者延べ39名)	12月	チン州ミンダ郡エタヤ村	3人	小学校に通う約30名および保護者	88
	物販	通年	佐賀市	2人	参加者延べ500名	11
	その他(スタディツアー等)	通年	佐賀市、シャン州、ヤンゴン	9人	約150人	163
	<b>小計</b>					

# 国内事業の活動報告



自分たちでできるSDGsの発表

2030年のSDGs達成のための人材育成を行いました

日本人大学生 **15名**  
中国人大学生 **6名** 韓国人大学生 **5名**

SDGs Academy SAGA 時期：2019年1月26日～2月2日

日中韓の大学生がSDGsを学び、2030年にはSDGsを達成できる人材を育成することを目的として実施しました。前半部分は、SDGsを先進的に取り組む行政や企業からお話を聞き、後半部分は学んだことを深めるワークショップを展開しました。

参加した日中韓の大学生にSDGsの中でどの問題課題への意識があるかを聞いたところ、男女でははっきりと分かれたのも興味深いものでした。男性は、より仕事に直結する部分に興味関心がありました。一方で、女性は教育、ジェンダーの問題に関心が多数を占めました。期間中、学んでいくうちに「国を超えて一緒に活動できるのでは？」という話も出ていました。また、社会を変革するのは若い人たちの力でもできるはずという事で、今後は行政や企業にもSDGsについての提案も行っていきたいという意見も出ました。まさに、ターゲット17番の「パートナーシップで目標を達成しよう」につながる機運を高めることができたのではないかと考えています。(ふるさと寄付金活用)



地域の大人と子どもの交流の場になっています

地域に根差した子どもの居場所が形成されました

2018年度に居場所を訪れた子どもの数 **403名**

子どもの居場所づくり事業 時期：2017年8月～現在

2017年度より、地域の子どもの支援に関心のある方やまちづくりを行っている方々と実行委員会をつくり、地域+学校+行政+CSO連携し、子どもの居場所づくりを行ってきました。月に1回行っている居場所には毎回40人前後の子どもたちが参加し、週に1回は少人数のための放課後の居場所の運営も行っています。

子どもの居場所運営においては、小中校の先生や民生児童委員、地域の方々、大学生、食材の寄付をして下さる方々、行政、他団体の皆様など多くの協力を頂いています。これらのまわりの大きな支えがあるからこそ、子ども達が安心して過ごすことができる居場所になっています。

子どもたちの居場所になっているだけでなく、地域の大人にとっても子ども達と繋がりがもてる場所になっています。居場所に遊びに来ている子どもたちと道で会った時に挨拶をしてくれた！という成果も生まれてきました。子どもの居場所が地域内を繋げる場として形ができてつあります。(委託元：佐賀市)



鳥の巣箱をつくりました

佐賀市中山間地域で交流人口を増やすための実証事業を行いました

提供プログラム **8**  
裨益者は **215名**

農泊推進事業 時期：2018年8月～現在

佐賀市三瀬において、地域への交流人口を増やし、地域全体を盛り上げていくことを目的に農泊推進事業を行いました。こちらは、地域の方が主体となってできた協議会を中心に、周辺にある温泉や地区内の飲食店等と連携し、観光客、インバウンド旅行者の受け入れなどを行いました。子ども向けのキャンプなど様々なプログラムを提供しています。いくつか実験的に行うことで今後定着するプログラムとして、観光客のリピート、滞在、定住も視野に入れて行動をしています。具体的には、フットパス、リポートレッキング整備、収穫体験開発、子どもキャンプ、セミナーなどを行いました。(提供元：農林水産省)





100名以上の参加者と一緒にオリーブ農園を維持しています

## 参加者延 126名

**オリーブの森事業** 時期：2014年4月～現在

里山保全の目的で、福岡や佐賀県内からの参加者と一緒にオリーブを栽培しています。

実も成り始めており、地元主体でできた吉野ヶ里オリーブ会も今後の商品開発のため他業者とも積極的に打ち合わせを重ねています。

今後の販路開拓がまだまだ課題ではありますが、商品化までのサポートを行っていきます。



県内を中心に地球市民運動を広げることができました

## 842名の方が聴講

**講師派遣** 時期：2018年4月1日～2019年3月31日

2018年度は、日本語学校、小中学校や放課後の集まりなど、多くの場所で地球市民の会の活動を紹介させていただく機会をいただきました。

小学生などの学生さんへの普及が増えてきており、将来地球市民の会を支えてくれる、未来のTPAサポーターを見据えた活動になっております。



ネットワーク加盟している  
佐賀災害支援プラットフォームが佐賀県と  
災害にかかる協定を締結しました

### 災害支援

当会を含め県内 34 の団体に構成される「佐賀災害支援プラットフォーム」は、今後、県内で起こりうる災害に向けて佐賀県と正式に協定を結びました。

そのためにも、普段からの顔の見える関係性づくりや勉強会を通して、有事の際にはすぐに動ける仕組みづくりを行っていきます。



## 担当者コメント

**秀島 彩女 (国内事業担当/子どもの居場所コーディネーター)**

一人一人可能性を秘めた子どもたちがどんな境遇にいても、自分らしく育っていけるよう私たち周りの大人が協力して子どもたちを支えていく仕組み、安心して過ごせる居場所づくりに取り組んでいくことはとても重要だと感じています。どんなに大きな課題でもそれぞれが無理なくできる範囲のことに少しずつ取り組んでいくことが課題解決につながっていくと思います。子どもたちの笑顔と地域の方の感謝の言葉はこの事業に取り組む上で一番の原動力となっています。この一年も地域のみなさんとともに頑張っています。



# タイ・スリランカ事業／奨学金事業の活動報告

交流するだけでなく両国の社会問題について考えてもらいました



ホストファミリーさんたちが集まった  
さよならパーティ

## 7人を佐賀に招へい 延べ450人と交流

スリランカ招へい事業「カタランカ～Cross Asia2018～」 時期：2018年9月14日～24日

スリランカ事業では、2012年から隔年で実施している招へい事業「カタランカ～Cross Asia 2018～」を実施しました。スリランカ・シヨダヤ奨学金で支援するゴール市・サンガミッタ校の学生6人と引率教諭1人を佐賀にお招きし、ホームステイやイベントなどで延べ約450人と交流を行いました。

4回目の実施となる今回は、ただ交流するだけでなく、日本とスリランカの両国にある社会問題について考えてもらう機会を提供するように心がけました。現地のカウンターパート(協力者)と話したのが、「環境問題」と「高齢化」でした。

スリランカでは、ごみが散乱するなど環境悪化が社会問題化していると言います。今回は佐賀市のエコプラザを訪問。ごみの回収方法や分別などについて学びました。スリランカの学生たちは、ごみを燃やした熱を活かした発電や、発生した二酸化炭素を活用した野菜栽培などに活用する活動に興味を持っていたようでした。高齢化問題では、神埼市の高齢者施設を訪問。日本の介護技術について学びました。

これらの視察で得た知識を基にしたワークショップでは、特に身近な問題である環境問題への話題が白熱。「分別のルールをつくっても徹底されない」「住民がごみを出さないという意識が低い」などとスリランカの課題を挙げ、「日本で得た知識を友達や家族に伝えたい」と“お土産”を手にした様子でした。

交流イベントでは、ホームステイや座禅体験、着物体験、伊万里市川内野地区での農泊体験などが学生には人気でした。また、今回、「地球市民秋祭り」と題したイベントを実施。スリランカカレーやスリランカの舞踊の披露のほか、空手の演武や大学生サークルのよさこいの披露などもあり、招へいた7人は多くの人と交流することができました。

期間中に水ぼうそうにかかる学生が発生するなどトラブルもありましたが、ホストファミリーの皆さんや実行委員会の皆さんのおかげで無事に終了することができました。ありがとうございました。

(助成元・佐賀市市民活動応援制度『チカラット』、佐賀銀行社会福祉基金)

※関連する  
主なSDGsの  
目標



### 担当者コメント

山路 健造 (タイ・スリランカ事業/奨学金事業担当)

2018年度は、Be Family プロジェクトからスリランカの招へい事業、志学生プロジェクトの面接と、7～10月にかけて、多くの事業が重なりました。また、事業中にケガをしたり、病気になったりと、予想外のハプニングにも見舞われました。準備がうまくできていないところもありましたが、ホストファミリーさん、インターンの学生さん、ボランティアさんと、多くの人に支えていただきました。本当にありがとうございました。







タイ人観光客をガイドする留学生(右)

## 通訳ボランティア派遣 100人超をガイド



### タイ人観光客の増える祐徳稲荷神社と覚書を締結しました

#### サワディー佐賀

時期：2018年1月～現在

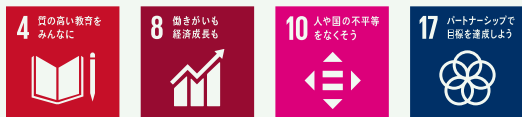
2018年にタイ事業の一環として設立を支援したサワディー佐賀は2018年6月、祐徳稲荷神社と、通訳ボランティア派遣に向けた覚書を締結しました。同神社は、ドラマや映画の影響でタイ人観光客が殺到しています。ただ、ガイドのいる団体客は良いものの、経済発展に伴って増える個人客は、神社の由来や参拝方法などが分からないまま、神社を後にしてしまうのが現状です。

そこで、タイ語ができるメンバーを月1回以上派遣することで、個人客に神社の由来やドラマのロケの裏話、お参りの方法などをガイドしています。2018年度は計11回ボランティアを派遣し、108人をガイドしました。タイ人観光客にとってさらに魅力的な観光地となるお手伝いができればと思います。

(佐賀県・佐賀CSOさいこう補助事業、佐賀県国際交流協会)



浴衣体験をするタイ人留学生



### 柳川高校留学生9人を受け入れ、ホームステイ事業を実施しました

#### Be Family プロジェクト

時期：2017年7月～2018年8月

2017年度からスタートした、柳川高校のタイ人留学生のホームステイ事業「Be Family プロジェクト」は2018年度、8人のタイ人と1人のインドネシア人留学生を受け入れました。

この事業は、夏休みに寮が閉鎖されるため、帰国せざるをえない留学生のために、ホームステイで受け入れながら日本語学校に通うというプロジェクトです。留学生は、長期間のホームステイを受け入れてもらう代わりに、家の手伝いをするので「家族として受け入れてもらいたい」というものです。

事業では、平日は日本語学校に通学。週末は、祐徳稲荷神社への観光や栄の国まつりでの浴衣体験、流しそうめんなどのイベントを開催しました。そして、最後はInternational Festivalを開催。タイやインドネシアの遊びを紹介したほか、タイの旧正月・ソクラーンの水かけ祭りの体験も実施しました。グリーンカレーやタピオカミルクティなども振る舞いました。

2年間実施したBe Family プロジェクトですが、当初企画した際の趣旨と違ってきている点などがあることから、一度事業を見直すことになりました。ホストファミリーで関わっていただいた皆様、どうもありがとうございました。

## タイ日人材育成協会 テムラック・チャオ会長より



3年前に私の娘が地球市民の会にインターンで参加し、子どもたちとの交流事業などに携わったのがきっかけで団体を知りました。長い間、タイの東北部の貧しい子どもたちなどを支援したと聞き、大変ビックリしました。そんなに長い間、地方の佐賀にある団体がやっていたと感心しました。

「Be Family プロジェクト」では、夏休みに寮が閉鎖される柳川高校留学生が日本に残って、日本語や日本社会について学ぶため、ホームステイを実施してもらいました。2年間大変お世話になりました。本当に本人たちも良かったと言っております。心より感謝しています。

# ミャンマー事業の活動報告



水源から引いた水を貯める大規模な貯水タンク

水不足が深刻な山岳地帯で給水設備を整備  
安全な水で衛生環境の改善

## ピンラウン地域 給水設備整備(シャン州)

時期：2017年9月～2018年9月

標高1000メートルを超える山岳地帯のピンラウン地域の人々は、給水設備が整っていないため生活に必要な水は雨水に頼って生活していました。1年のうち雨が降らない約9か月間は、家庭に設置してある小さな水タンクに雨水を貯めて少しずつ使い、タンクが空になると山道を何時間も歩いて水を汲みに行くという不便な生活を続けてきました。中には水汲みのため学校に通えない子どももいました。使える水が限られるためトイレや洗濯に水を十分に使えず、衛生環境の悪さから皮膚病や下痢など健康被害も多く発生していました。

こうした問題を解決するため、水源から各集落までの給水設備の整備を行いました。これにより、住民の安全な水へのアクセスが大幅に改善されました。合わせて農業研修や、手洗いうがい・歯磨きなどの保健衛生の指導を行い、約3,000人の住民が参加しました。

(助成元：外務省NGO連携無償資金協力)



地域住民や子供たちを対象に  
衛生概念学習(手洗い、うがい、トイレ、歯磨き等)  
を促進する研修を行いました

安全な水を  
使えるようになった人  
10村13,000人



農家にハトムギの収穫方法を指導している様子

付加価値の高いハトムギを生産  
農民の収入向上と自立を目指して

## ハトムギ栽培・加工(シャン州)

時期：2017年5月～現在

トウモロコシなどの価格変動の影響を受けやすい作物を栽培する農家は、収入が安定せず、年によっては栽培コストが収入を上回ってしまうことも少なくありません。こうしたシャン州の農家が安定した収入を得られるよう、日本企業の指導の下ハトムギ生産を行ってもらい、企業が買取って日本へ輸出する事業を行っています。2018年度は約50トン栽培農家から買い取り、そのうち40トン輸出しました。

(委託元：西田精麦株式会社)

2018年度輸出量  
40トン





多くの女性や子どもたちも参加し一緒に植林を行いました

## インレー湖の美しさを取り戻すために 自然と人の共生を目指して

### インレー湖 湖畔緑化(シャン州)

時期：2017年4月～2019年3月

生活に必要な木材の確保のため、多くの木が伐採され山の土砂がインレー湖に大量に流入しています。また、土砂中の化学肥料や農薬により湖内の生態系が破壊され、漁獲量にも大きく影響しています。湖周辺の環境保全のため、500名以上の村の人々と一緒にモリンガやコーヒー、マンゴーの木など合計19,240本の植林を実施しました。また、化学肥料や農薬を使用しない循環型農法の研修を行い200名以上の住民が参加しました。植林活動や研修の参加者からは「木を植えることは村一丸となってやっていることなのでこれからも続けていきたい」「これまで聞いたことのない技術を学ぶことができた。環境のためにいい農法なので実践していきたい」「自分たちの力で今後も環境保全活動を続けていきたい」といった声が聞かれました。

(助成元：(公社)国土緑化推進機構 緑の募金、  
株式会社三井住友信託銀行 地球環境日本基金)

# 植林本数 19,240本



ワークショップ形式で、湖畔村と山の上の村が  
インレー湖のために行動すべきことを話し合った

## 学術的な調査データのプラットフォーム構築 原因分析と対策で環境保全を目指す

### インレー湖 環境汚染調査(シャン州)

時期：2017年9月～現在(2年目)

およそ15万人が湖上で暮らしているミャンマー有数の観光地インレー湖。年々深刻化する環境問題に対し、1年目に引き続き東洋大学と協働で水質や土砂流入量の測定を実施しています。学術的な調査データをもとに、地域住民を対象とした環境問題を正しく理解し、行動するためのワークショップを実施しました。環境問題はインレー湖上に住む住民だけのものではなく、山からの土砂や他地域からの汚染物質の流入など、地域全体の問題であるという理解を促す第1歩となりました。

(助成元：株式会社三井物産 三井物産環境基金)



水質調査の様子



# ミャンマー事業の活動報告



農村の若者に向け『フェアトレード』についての講演会を実施

生産者の持続的な収入向上を目指して  
付加価値をつけた商品開発

## フェアトレード商品開発に向けた 事前調査事業(シャン州・チン州)

時期：2018年10月～2019年3月

これまでシャン州農村部での住民の収入向上を目指し、モリンガの植林・加工を進めてきました。また、2018年度より事業を開始したチン州においては、コーヒーの栽培技術の普及指導を行っています。これらの活動を更なる生産者の持続的な生活向上へ繋げるため、付加価値をつけた「フェアトレード商品」としての商品化を目指し、NPO法人くまもと未来ネットと連携して商品開発・輸出の可能性を探る事前調査を行いました。

栽培状況や市場調査を行いつつ、「フェアトレード」が生まれた背景や価値について理解を深めるため、ミャンマーの農村地域の若者を対象に講演会も行いました。

(助成元：特定非営利活動法人NGO福岡ネットワーク)



オイル抽出をする前のモリンガの実



完成した水タンクに水を入れた様子

安定した水資源の確保  
安全な飲み水と衛生的な暮らしを

## 安定した水利用の実現と 衛生環境改善事業(シャン州)

時期：2018年6月～2019年3月

ナウンタヤ地域は、水源から村への配水整備を村が行ってききましたが、資金に限りがあることから水資源を有効に利用するための貯水タンクを作ることができませんでした。地域の水源は水の量が少なく貴重なため、トイレや洗濯などに十分に使うことができず、暑さが増す季節には不衛生な暮らしをせざるを得ませんでした。本事業では4村に貯水タンクを設置し、人々が安定して衛生的な水が利用できる環境を整備しました。また、水をどのように利用して衛生環境を保つかについて学ぶ保健衛生研修を7回実施し、約760人の村人が手洗いうがいなどの基本的な衛生知識を学びました。

(助成元：(一財)ゆうちょ財団)

# 衛生環境が改善された人 4村2,500人





堰の水門部分を建設している様子

全長183mの堰を整備し乾季でも農業を可能に二期作の実現で農民の所得向上へ

## ナウンカ地域 農業堰建設(シャン州)

時期：2018年10月～現在

ナウンカ地域では住民の9割以上が農業を営んでいます。しかし灌漑設備がないため雨季の天水に頼った農業をしており、雨が降らない乾季には作物栽培ができず、収入に大きく影響しています。また、雨季の時期が遅れると適正な時期に種をまくことができず、収量が減ってしまいます。

こうした課題に対し、年間を通じて農作物の栽培ができるよう、2年間かけてこの地域に農業堰と農地への配水路を整備しています。いつでも使用できる農業用水が確保されることで安定した収量も見込めます。事業終了後は地元の人たちが管理していけるよう、地域の首長をはじめとする維持管理委員会を組織し、水使用規則などの策定も行っています。

(助成元：外務省NGO連携無償資金協力)



地域住民で構成されたナウンカ農業堰建設委員会とのミーティングの様子

年間を通して水が  
利用できるようになる人  
4村711世帯  
農地：280ヘクタール



循環型農法の研修テキストを見せてもらいました

地球市民の会の活動地を訪問  
農村の暮らしを体験し「豊かさ」を考える

## スタディツアー(シャン州)

時期：2018年9月

現地の課題を知り、それに取り組む私たちの活動を知ってもらうことを目的としたスタディツアー。2018年度は全国各地から10名の参加者がミャンマーを訪れました。文化だけでなく、現地の人たちの生活に潜む課題を目の当たりにすることで、「平和とは何か」「豊かさとは何か」をそれぞれ考え深める機会となりました。今回は奨学金事業で『さとおや』として現地の高校生を支援してくださっている方も参加され、他の参加者からは「自分たちに身近にできる支援について考えさせられた」という感想も聞かれました。

参加者10名



# ミャンマー事業の活動報告



センター建設の様子

持続可能な農業で食糧難に終止符を  
ミャンマー最貧困地域に研修センターを建設中

## ライレンピー持続開発研修センター建設(チン州)

時期：2018年10月～現在

チン州ライレンピーでは移動式焼畑が代々続いてきましたが、地力が回復する前に焼いてしまう過度な焼畑が繰り返され、収量は以前の半分以上に落ち込んでいます。家族が食べる1年分の米すら収穫できず、また現金収入がほとんど無いため食料を買うことも困難です。育ち盛りの子供たちも1日1～2食しか食べることができません。

ここに、循環型農畜産業の普及拠点となる「ライレンピー持続開発研修センター」を建設しています。建設完了後は農業研修と栄養研修を実施し、生活水準の底上げを目指します。センター敷地内にはデモファームも整備中で、農業研修では座学だけでなく実践でも学べる環境を整えます。現在、現地スタッフ5名が研修の準備を着々と進めています。

(助成元：外務省NGO連携無償資金協力)



センター敷地内に整備しているデモファーム



日本人専門家から研修を受けている様子

アグロフォレストリー農法によるコーヒー栽培  
収入増加と環境保護を同時に実現へ

## ライレンピーアグロフォレストリー(チン州)

時期：2018年7月～現在

ライレンピーにおいて、人口増加などが原因の過度な移動式焼畑は農作物の収量を減少させるうえに、大規模な環境破壊を引き起こしています。住民たちも危機意識を持ってはいるものの、新しい農法や土地に適した作物の知識がなく、この状況から長年抜け出せずにいます。

低収入と環境破壊という2つの問題にアプローチすべく、アグロフォレストリー農法を用いたコーヒー栽培の普及を開始しました。コーヒーからの現金収入獲得と、失われた森林の再生を目指します。コーヒーだけでなくマカダミアなどの換金作物も同時に植林し、単作ではなく様々な収入源をつくる工夫もしています。

2018年度は日本人専門家によるコーヒー栽培研修を2回実施。また、モデル村を2村選出して栽培指導を行っています。今後も栽培農家を増やし、収穫・加工に向けて研修を継続していく予定です。

(助成元：(公社)国土緑化推進機構 緑の募金)

植林本数  
5,500本





修繕が完了した校舎と学校建設委員会のメンバー

## 老朽化した小学校を修繕 子どもたちの学習環境が改善

### エタヤ小学校校舎修繕(チン州)

時期：2018年12月20日～27日

チン州にあるエタヤ村は30世帯178人が暮らす小さな村です。村にある木造の小学校校舎は老朽化が進み、壁の木材は腐敗するなどしてたくさんの隙間がみられる状態でした。雨季になるとその隙間から雨が吹き込んで子供たちの服が濡れ、さらに教科書やノートも濡れて使えなくなってしまっていました。

このプロジェクトでは、壁をトタンで覆って隙間をふさぎました。また、天井板と窓ガラスの設置も行い、より風雨に強い校舎にすることができました。村の人々が積極的に工事に参加し、予定よりも短い期間での完成となりました。

今後、校舎の修繕が再度必要になった場合に備え、維持管理基金の創出に取り組みます。村の人たちが寄付した土地を学校農園とし、アボガド、こんにゃく、じゃがいもを植え、販売した収益を基金として貯めていくことになりました。

(2017年度バースデードネーションでのご寄付  
：支援者様延べ37名)

## 学習環境が 改善された子どもたち 30人



## 担当者コメント



### 柴田京子 (ミャンマー国代表・プロジェクトマネージャー)

2018年のTPAミャンマー事業は①新事業の開始②ローカル化の準備という大きな動きがありました。2003年から実施してきたシャン州での活動を新事業地チン州へ移転するため、11月にチン州ミンダ町に事務所を開所、本格的に事業が開始しました。ローカル化の準備としては、「TPAミャンマー」としてミャンマー政府認可のNGOが設立されました。これまでの経験を踏まえローカルスタッフが主導で活動しています。ミャンマー事業はローカルスタッフも含め『チーム』で行っています。日本の皆さんのご支援を受けながら、地域の人たちとチームが一緒になって進めていく体制をきちんと整え、本当に必要な事業を実施できるNGOとして息の長い活動を目指してまいります。



### コ・マンリン (チン州ミンダ事務所 アドミニストレーションオフィサー)

チン州での事業は始まったばかりですが、プロジェクトの規模が大きくて緊張しています。自分の地域を良くしていくためのプロジェクトなので、スタッフとして関わることができて本当に嬉しいです。チン州はとても不便な地域で、事務所を開いて活動している外国のNGOはまだ少ないです。これから村の人たちと協力して活動していく中で困難なことが多々起きると思いますが、寄付してくださる皆さんの期待に応えられるようにたくさん活躍していきたいです。



### 諫山由紀子 (佐賀事務局調整員)

事業調整員1年生の年でしたが、長年活動してきたシャン州が自立の途へ踏み出し、また新たな土地チン州への事業の拡大と、ミャンマー事業にとって新しいことの多い1年でした。多くのご支援と想いが積み重なってある今なのだと感じています。

ミャンマーでの活動のすべてを直接見届けることはできませんが、事務局での業務の一つ一つもミャンマーの人々に繋がる想いと誇りをもって、日本からミャンマー事業を支えていけるよう努めていきたいと思っています。

# 支援を受けたみなさんからの声



ミャンマー・チン州/ピンティヤ村コーヒープロジェクト委員長

## ウ・リーゾーさん

日本人専門家によるコーヒー栽培研修に参加し、座学と実習で4日間集中して学ぶことができました。外国でのコーヒー栽培や消費者の様子を映像で見せてもらい、とても意欲が湧きました。初めて栽培するので大変なこともあるかもしれませんが、モデル村として栽培を絶対に成功させたいと思います。村の人たちも、新たな収入源の一つとしてコーヒーに期待を寄せています。



ミャンマー・チン州/エタヤ小学校校長

## ウ・シェーコーゲーさん

以前の校舎は決して安全とは言えず、教室内に雨が吹き込んでいたため児童や先生の健康を害することが多かったです。来年度から児童の数が増える予定なので、いい教育環境を準備することができて嬉しく思います。これからもにぎやかで楽しい学校を作っていくよう頑張ります。



タイ/柳川高等学校2年生

## ラッタナカ・ジフォン・チョワットさん

佐賀県は、静かで暮らしやすい場所です。ホームステイでは色々な経験をすることができました。毎日ホストファミリーと話してとても楽しいでした。生活のことや日本語などホストファミリーにたくさん助けてもらったことをとても感謝しています。私はホームステイのおかげで日本語が上手になりました、でもこれからももっと頑張りたいと思います。



スリランカ/シショダヤ奨学生

## ラシニ・アンジャナさん

私たちが日本で素晴らしい経験ができたのは日本のお父さん、お母さん、地球市民の会のスタッフそして佐賀に住むみなさまのおかげです。佐賀の美しい自然、歴史や偉人、文化、おいしい食べ物、リサイクルセンター、介護施設訪問、すべてが新しい発見と学びでした。そして何よりも佐賀の温かい人々との出会いは私の宝物です。本当に感謝しています。ありがとうそして大好きです。



ミャンマー・シャン州/ヌワダマ北村

## マ・ニュンチャータンさん

ミンガラパー。私たちのヌワダマ村は、インレー湖の湖畔にあります。2018年6月21日に、インレー湖の環境保全のため、TPAと村が協力して植樹祭を行いました。毎年6月21日は植樹祭の日と、村の人たちで話し合っ決めてきました。3月にTPAが実施した環境問題を学ぶスタディーツアーにも参加し、とても勉強になりました。今は循環型農業の実践を頑張っていますが、インレー湖を守るための活動を続けようと改めて決意しました。



ミャンマー・シャン州/ルエサンシツ村

## クン・ラー・チョーさん

3か月研修に参加しています。この研修に参加した目的は、循環型農業を学んで、自分の農業に生かしたいからです。自分だけでなく、村の人たちにも伝えていきたいと思っています。この研修に参加できたのは、僕にとってとても価値があります。研修を実施してくれたTPAに感謝しています。



# 2018年度 ~活動計算書・貸借対照表・監査報告~


活動計算書 (税込)(単位:円)  
自 平成30年4月1日 至 平成31年3月1日

【経常収益】	
【受取会費】	
正会員受取会費	1,951,000
学生会員受取会費	12,000
賛助寄附受取会費	407,000
団体賛助寄附受取会費	410,000
購読会員受取会費	18,000
<b>【受取会費】合計</b>	<b>2,798,000</b>
【受取寄附金】	
本部寄附金収入	273,041
国内寄附金収入	50,445,000
奨学金寄附金収入	3,844,339
タイ・スリランカ寄附金収入	170,000
ミャンマー寄附金収入	2,762,819
<b>【受取寄附金】合計</b>	<b>57,495,199</b>
【受取助成金】	
国内助成金収入	91,448
タイ・スリランカ助成金収入	400,000
ミャンマー助成金収入	93,739,024
<b>【受取助成金】合計</b>	<b>94,230,472</b>
【受取委託金】	
国内委託金収入	2,492,380
タイ・スリランカ委託金収入	954,000
ミャンマー委託金収入	503,702
<b>【受取委託金】合計</b>	<b>3,950,082</b>
【事業収入】	
国内事業収入	625,473
タイ・スリランカ事業収入	174,043
ミャンマー事業収入	1,013,522
<b>【事業収入】合計</b>	<b>1,813,038</b>
【その他収入】	
受取利息	167
為替差益	28
<b>【その他収入】合計</b>	<b>195</b>
<b>経常収益計</b>	<b>160,286,986</b>
【経常費用】	
【事業費】	
国内事業支出	26,556,833
奨学金事業支出	2,924,014
タイ・スリランカ事業支出	1,614,250
ミャンマー事業支出	107,354,726
<b>(直接事業支出額)</b>	<b>138,449,823</b>
給料 手当(事業)	18,006,886
法定福利費(事業)	2,194,010
通信運搬費(事業)	251,374
消耗品費(事業)	220,519
印刷出版費(事業)	165,826
広告宣伝費(事業)	473,620
水道光熱費(事業)	153,633
賃借料(事業)	303,400
地代・家賃(事業)	530,818
支払手数料(事業)	245,169
(その他の事業支出額)	22,545,255
<b>事業費計</b>	<b>160,995,078</b>
【管理費】	
給料手当	4,682,271
役員報酬	1,200,000
法定福利費	563,737
福利厚生費	947,080
印刷製本費	77,843
会議費	54,520
旅費交通費	137,191
研修費	23,500
通信運搬費	118,003
消耗品費	103,517
水道光熱費	72,120
地代家賃	249,182
賃借料	142,425
広告宣伝費	222,332
新聞図書費	7,123
保険料	49,020
諸会費	277,160
租税公課	283,000
支払手数料	115,089
雑費	91,504
<b>管理費計</b>	<b>9,416,617</b>
<b>経常費用計</b>	<b>170,411,695</b>
<b>当期経常増減額</b>	<b>-10,124,709</b>
【経常外収益】	
ミャンマー未使用資金戻入益	67,600,438
【経常外費用】	
ミャンマー未使用資金繰入損	22,197,653
《正味財産増減の部》	
税引前当期正味財産増減額	35,278,076
法人税、住民税及び事業税	81,000
当期正味財産増減額	35,197,076
前期繰越正味財産額	63,887,336
<b>次期繰越正味財産額</b>	<b>99,084,412</b>


貸借対照表 (税込)(単位:円)  
平成31年3月31日現在

科目	前期末	今期末
《資産の部》		
【流動資産】		
現金	142,221	306,414
普通預金	41,900,063	23,909,586
現金・預金計	42,042,284	24,216,000
未収金	307,734	519,899
売上債権計	307,734	519,899
仮払金	0	3,654
短期貸付金	0	7,661,253
ミャンマー未使用資金	22,197,653	67,600,438
<b>流動資産合計</b>	<b>64,547,671</b>	<b>100,001,244</b>
【固定資産】		
出資金	2,000,000	2,000,000
<b>固定資産合計</b>	<b>2,000,000</b>	<b>2,000,000</b>
<b>資産合計</b>	<b>66,547,671</b>	<b>102,001,244</b>
《負債・正味財産の部》		
【流動負債】		
未払金	1,169,337	1,409,755
前受金	1,116,000	960,000
預り金	374,998	536,077
仮受金	0	11,000
流動負債計	2,660,335	2,916,832
<b>負債合計</b>	<b>2,660,335</b>	<b>2,916,832</b>
【正味財産】		
前期繰越正味財産額	85,256,450	63,887,336
当期正味財産増減額	-21,369,114	35,197,076
正味財産計	63,887,336	99,084,412
<b>正味財産の部合計</b>	<b>63,887,336</b>	<b>99,084,412</b>
<b>負債・正味財産合計</b>	<b>66,547,671</b>	<b>102,001,244</b>






認定NPO法人国際協力NGOセンターより、2015年にASC2012の認証を受けました



健全な組織として評価する非営利組織評価センターより、2017年に基礎評価を受け、「全ての基準を満たしている」と第三者評価されました



国連グローバル・コンパクトの要約の実践状況および国連の様々な目標の支持について、このコミュニケーション・オン・プログレスを通じて報告しています。

内容に関するご感想・ご意見を歓迎します。

持続可能な成長を実現するための世界的な枠組み作りである「国連グローバル・コンパクト(UNGC)」に署名をいたしました。



活動計画  
Activity Plan 2019  
2019.4.1~2020.3.31

# 2019年度の活動方針

令和元年度の活動方針は、これまでに引き続き、地域づくりとしての視点と国際交流、国際協力的な視点とフィールドを合わせ持ちながら（Global+Local=Glocal）、SDGs（持続可能な開発目標）の基本姿勢である「誰一人取り残さない」を目指し、未来を創る事業や活動に取り組んでいきます。

そのためのより具体的な方法として、地域と社会的な資源や素材を活用し、問題・課題を解決して行くことを事業化すること（ソーシャル・ビジネス化、コミュニティ・ビジネス化）に取り組んでいきます。

地球市民の会の役員、会員、支援者、地域の皆様方より良きご理解とご支援、ご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

## 国内事業

### 子どもの居場所づくり

時期：通年

昨年度に引き続き、佐賀市と連携して、子どもの居場所づくりを行います。

地域で子どもを育てる仕組みづくりのために、地域の方や大学生に協力をいただき、誰もが気軽に来ることができる居場所を月1回程度行っていきます。また、平日夕方に1ヶ月に数回程度、支援等が必要な子どもたちを対象に、少人数の居場所を展開していきます。

負の連鎖からの脱却を目指し、学習支援など他業種含めた連携を行います。

### SDGs Academy SAGA

時期：2月

中国人・韓国人、ASEANの大学生を佐賀に招聘し、SDGs達成に向けて学び合う人材育成事業を行います。

### 佐賀市中山間地域づくり事業

時期：通年

苗木もめん、農泊推進事業（空き家活用および移住支援事業）

### 協働事業

行政からの委託事業の実施

佐賀インターナショナル・ゲストハウス HAGAKURE と事業連携

### 資金調達

ふるさと納税、Syncable、お宝エイドなど、様々な手法を活用して資金調達を行い、新たに600名関わっていただく方々を増やします。



### 佐賀 SDGs 官民連携フォーラム

年に数回程度、官民でSDGsの認知および普及、行動に向けた勉強会を実施します。

### NEW 佐賀龍谷学園とSDGs連携事業

学校の授業でSDGsをテーマにした講義やワークショップ、また、外部から講師を招聘し、より専門的な授業を提供する。2030年の未来を創る人材育成事業。

### オリーブの森プロジェクト

時期：通年

耕作放棄地を活用した里山保全事業。福岡、佐賀からのオーナーを募り、オリーブ畑全体の管理や栽培を行っています。

### 緊急支援

昨今、毎年被害が出ている災害に対し、佐賀県内外問わず、支援ができるように県内を中心としてできたネットワークを活かして訓練や勉強会を行います。



佐賀龍谷学園とのSDGs連携事業



SDGs Academy SAGA

# タイ・スリランカ事業

NEW

## 志学生プロジェクト

時期：通年

農村部の学生が日本へ留学しながら介護施設で働き、介護技術を学ぶ事業「志学生プロジェクト」を実施します。高齢化が進むタイに日本の高い介護技術を伝えるとともに、人手不足が進む日本の介護業界の担い手育成も進めます。2019年度は第1期生が来日し、日本語学校での授業と介護施設での仕事を頑張っています。

## ばーん・たわん

時期：通年

古着をご寄付いただき、その益金をアジアの子どものための教育基金に活用させていただく「ばーん・たわん」(タイ語で『太陽の家』)は、佐賀市のエコプラザでのエコマーケット(毎月第3日曜日)への出店をさせていただくことになりました。

## サワディー佐賀運営支援

時期：通年

佐賀県内に住むタイ人ネットワーク「サワディー佐賀」の運営を支援します。他国グループのモデルをめざし、県内の多文化共生に寄与します。



介護施設で高齢者と交流する留学生



サワディー佐賀のタイ料理交流会

# 奨学金事業

## 奨学金

申込締め切り：2019年9月30日

スリランカ・ミャンマーの2カ国で、高校生を中心に奨学金支援を実施しています。ミャンマーへの奨学金は優秀ながらも経済的な理由で進学することのできない子どもたちを対象にしています。

一方スリランカへの奨学金は地球市民の会と縁が深い女子高校の優秀な学生たちを対象にしており、奨学金支援、日本への招聘事業を通して将来日本とスリランカの架け橋になってほしいという願いが込められています。

また奨学金全体をご支援いただく奨学金サポーター(お好きな額をお好きな時期に)もございます。

支援してくださる方々はこどもたちの日本の親として「さとおや」と呼んでいます。



# ミャンマー事業



## シャン州

### タンボジ農業畜産研修センター

時期：通年  
 グリーンヒルとの連携、収入向上  
 企業との連携によるハトムギ栽培・加工事業の拡大



タンボジセンターで化学肥料や農薬を使わずに栽培された農作物



地域農民への研修の様子

### ナウンカ村落開発センター

時期：通年  
 自然資源の循環を大切に、土着菌堆肥や木酢液などを用いる持続可能な循環型農業の普及のため、農民対象の短期～長期研修を実施しています。生産した有機農産物は付加価値をつけて販売できるため、農家の収入・生活水準向上にも寄与します。

### ナウンカ農業用水給水事業

時期：通年  
 シャン州ナウンカ地域では、灌漑設備が整っておらず天水に頼った農業を続けてきました。農業堰を整備し、およそ 280 ヘクタールの農地で二期作が可能になることを目指します。



地域住民で構成される堰維持管理委員会との話し合い

### タンボジ寮の運営、高校生支援

時期：通年  
 高校生 16 名の支援・農村リーダーの育成



老朽化し水管理ができなくなっている簡易堰

NEW

### マインピン給水事業

時期：9 月～  
 シャン州マインピン地域では、水源は豊かなものの、貯水や農地への灌漑設備が整っていないため雨季しか作物が栽培できていません。栽培できる作物の種類が限られ、農民の所得も他地域と比べ低くなっています。給水設備を整備することにより、豊富な水を管理し、年間を通じて作物栽培が可能になることを目指します。



インレー湖上に繁殖し湖面を覆っているホテイアオイ

NEW

ホテイアオイ堆肥作製事業

時期：9月～

インレー湖の水面に浮遊する外来植物のホテイアオイは繁殖力が高く、インレー湖の水質に影響を及ぼしています。インレー湖流域の地域でホテイアオイの堆肥化を行い、地域の農民が循環型農業の堆肥として使用できる環境保全体制の確立を目指します。

インレー湖の環境汚染調査

時期：通年

インレー湖の環境悪化要因の分析、環境教育ワークショップの開催(東洋大学との協働事業)

交流事業

時期：9月、3月

毎年、TPA スタディツアーの実施、鹿児島大学・佐賀大学・東洋大学ツアーの受入などを行っています。観光や文化交流だけでなく、循環型農業普及や環境保全活動の事業地を訪問し、現地の課題に取り組む活動を知ってもらうことを目的としています。

コミュニティビジネス事業

時期：通年

モリンガの搾油や農産物の販売



スタディツアーで子どもと交流

チン州



循環型農法を用いたデモファーム

ライレンピー持続開発研修センター

時期：通年

大多数の人が焼畑農業で生計を立てていますが、収量が非常に少なく、販売して現金収入を得ることはもちろんのこと、家族が食べる量すら確保することが厳しい状況です。活動拠点となる研修センターを建設し、モデルファームでの循環型農法研修をはじめ、栄養指導、給水整備と保健衛生指導等を行います。

ライレンピーアグロフォレストリー事業

時期：通年

焼畑で失われた森林を取り戻し、さらに現金収入が得られるよう、コーヒーなど換金作物の植林を進めます。日本から専門家を派遣して栽培指導を行い、高品質な作物を生産することを目指します。

学校校舎建設・修繕事業

時期：通年

チン州にあるレーカウン準中学校は、木材の腐敗やシロアリ被害などで壁や床に穴が開き、校舎の老朽化が進んでいます。雨季になるとその穴から雨が吹き込み、子どもたちや教科書も濡れてしまいます。安心・安全な環境で学べるよう、村の人たちと一緒に新しい校舎の建設を行います。



老朽化により穴や隙間だらけの壁

# 2019年度 予算書・予算明細書

## 2019年度 活動予算書

自 2019年4月1日 至 2020年3月31日

【経常収入の部】	2018年度決算	2019年度予算
①本部収入	3,071,236	11,282,286
会費収入	2,798,000	3,000,000
寄付金収入	273,041	300,000
その他収入	195	2,000
前期繰越正味財産額		7,980,286
②国内事業収入	53,654,301	64,350,000
寄付金収入	50,445,000	48,100,000
補助金・助成金等収入	91,448	100,000
委託金収入	2,492,380	2,550,000
事業収入	625,473	400,000
前期繰越正味財産額		13,200,000
③奨学金事業収入	5,542,382	6,992,471
寄付金収入	4,014,339	5,040,000
助成金収入	400,000	0
委託金収入	954,000	0
事業収入	174,043	0
前期繰越正味財産額		1,952,471
④タイ・スリランカ事業収入	0	370,000
寄付金収入	0	170,000
助成金収入	0	0
委託金収入	0	0
事業収入	0	200,000
前期繰越正味財産額	0	0
⑤ミャンマー事業収入	98,019,067	179,987,655
寄付金収入	2,762,819	500,000
助成金収入	93,739,024	102,336,000
委託金収入	503,702	650,000
事業収入	1,013,522	550,000
前期繰越正味財産額		75,951,655
<b>経常収入合計</b>	<b>160,286,986</b>	<b>262,982,412</b>
【経常支出の部】		
①本部管理費	9,416,617	9,612,000
直接事業費	0	
人件費	7,393,088	3,012,000
予備費		2,600,000
その他管理費	2,023,529	4,000,000
収支差額	-6,345,381	1,670,286
②国内事業費	31,215,753	60,994,000
直接事業費	26,556,833	48,250,000
人件費	3,855,200	9,744,000
その他管理費	803,720	3,000,000
収支差額	22,438,548	3,356,000
③奨学金事業費	8,267,395	5,776,800
直接事業費	4,538,264	3,532,800
人件費	3,085,810	1,344,000
その他管理費	643,321	900,000
収支差額	-2,725,013	1,215,671
④タイ・スリランカ事業費	0	352,000
直接事業費	0	0
人件費	0	252,000
その他管理費	0	100,000
収支差額	0	18,000
⑤ミャンマー事業費	121,511,930	179,568,438
直接事業費	107,354,726	159,800,438
人件費	13,259,886	16,768,000
その他管理費	897,318	3,000,000
収支差額	-23,492,863	419,217
<b>経常支出合計</b>	<b>170,411,695</b>	<b>256,303,238</b>
当期経常収支差額	-10,124,709	6,679,174
ミャンマー未使用資金戻入益	67,600,438	0
ミャンマー未使用資金繰入損	22,197,653	0
法人税、住民税及び事業税	81,000	81,000
当期正味財産増減額	35,197,076	6,598,174
前期繰越正味財産額	63,887,336	
次期繰越正味財産額	99,084,412	6,598,174

## 2019年度予算明細

本部	収入合計	11,282,286
	①会費収入	3,000,000
	②寄付金収入	300,000
	③その他の収入	2,000
	④前期繰越金	7,980,286
国内事業	収入合計	64,350,000
	①寄付金収入	48,100,000
	絆伝心	100,000
	ふるさと寄付金	48,000,000
	②助成金収入	100,000
	オリブ事業	100,000
	③委託金収入	2,550,000
	佐賀県協力隊を育てる会事務局	50,000
	子どもの居場所づくり事業	2,200,000
	農泊推進協議会事務局	300,000
	④自主事業収入	400,000
	SDGs Academy SAGA	400,000
	⑤前期繰越金	13,200,000
奨学金事業	収入合計	6,992,471
	①寄付金収入	5,040,000
	スリランカ奨学金	480,000
	ミャンマー・タンボン奨学金	1,920,000
	ミャンマー・ジャン奨学金	1,440,000
	マンスリーサポーター	1,200,000
	②前期繰越金	1,952,471
タイ・スリランカ事業	収入合計	370,000
	①寄付金収入	170,000
	タイ志学生プロジェクト	170,000
	②自主事業収入	200,000
	物販(エコマーケット等)	200,000
ミャンマー事業	収入合計	179,987,655
	①寄付金収入	500,000
	②助成金収入	102,336,000
	MOFA2年目(NK 堰、MP 堰、LLP)	93,000,000
	インレー湖環境汚染調査事業	2,336,000
	レーカウん準中学校校舎建設事業	5,000,000
	インレー湖環境保全体制の確立事業	2,000,000
	③委託金収入	550,000
	④自主事業収入	650,000
	スタディツアー	450,000
	フェアトレード商品販売	200,000
	⑤前期繰越金	75,951,655
全体	収入合計	262,982,412
本部	支出合計	9,612,000
	①事業費	0
	②人件費	3,012,000
	③共通管理費	4,000,000
	④予備費	2,600,000
	収支差額	1,670,286
国内事業	支出合計	60,994,000
	①直接事業費	48,250,000
	SGDs 関連事業	13,200,000
	地球共感教育	2,500,000
	国内イベント	2,000,000
	オリブ事業	3,000,000
	タイ志学生プロジェクト	500,000
	地球市民拡大キャンペーン	1,000,000
	災害支援研修事業	1,000,000
	子どもの居場所づくり事業	1,000,000
	ふるさと納税事務管理費等	24,000,000
	絆伝心	50,000
	②直接人件費	9,744,000
	人件費(事務局長)	4,620,000
	人件費(ファンドレイジング・広報)	3,780,000
	嘱託職員	1,344,000
	③共通管理費	3,000,000
	収支差額	3,356,000
奨学金事業	支出合計	5,776,800
	①直接事業費	3,532,800
	スリランカ奨学金	240,000
	ミャンマー・タンボン奨学金	1,152,000
	ミャンマー・ジャン奨学金	864,000
	スリランカ現地調整費	120,000
	ミャンマー奨学金現地調整費	556,800
	マンスリーサポーター事業費	600,000
	②直接人件費	1,344,000
	嘱託職員	1,344,000
	③共通管理費	900,000
	収支差額	1,215,671
タイ・スリランカ事業	支出合計	352,000
	①直接事業費	0
	②直接人件費	252,000
	人件費(ファンドレイジング・広報)	252,000
	③共通管理費	100,000
	収支差額	18,000
ミャンマー事業	支出合計	179,568,438
	①直接事業費	159,800,438
	MOFA1年目(NK 堰、LLP センター)	3,500,000
	MOFA2年目(NK 堰、MP 堰、LLP)	80,000,000
	インレー湖環境汚染調査事業	1,600,000
	ライレンピーアグローフォレストリー事業	1,400,000
	レーカウん準中学校校舎建設事業	4,000,000
	インレー湖環境保全体制の確立事業	1,200,000
	ナウンカセンター	200,000
	スタディツアー	300,000
	ミャンマー未使用資金	67,600,438
	②直接人件費	16,768,000
	ミャンマー	13,024,000
	国内	3,744,000
	共通管理費	3,000,000
	収支差額	419,217
全体	支出合計	256,303,238

# 私たちについて

## 【ミッション】

世界各国・日本・地域において、他の人の幸せを自分の幸せとして感じられる人、つまり、「地球市民」として、今の幸せを感じながら生活している社会を創ること

## 【団体概要】

名称 特定非営利活動法人地球市民の会  
設立 1983年7月(2002年に法人取得、2010年に認定NPO法人となる)

## 【活動対象国】

日本国内、ミャンマー、タイ、スリランカ、中国、韓国

## 【主な褒章】

サントリー地域文化賞(1988年)／国際交流基金地域交流振興賞(1989年)／佐賀県政功労者知事賞(1994年)／自治大臣表彰(1996年)／厚生大臣感謝状(1996年)／外務大臣表彰(2000年)／にしぎんアジア貢献賞(2003年)／地球倫理推進賞(2006年)／文部科学大臣奨励賞(2006年)／かめのり賞(2017年)／社会貢献支援財団賞(2017年)



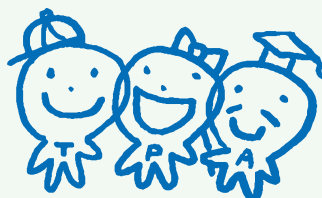
武蔵会の様子

## 【世界のネットワーク】

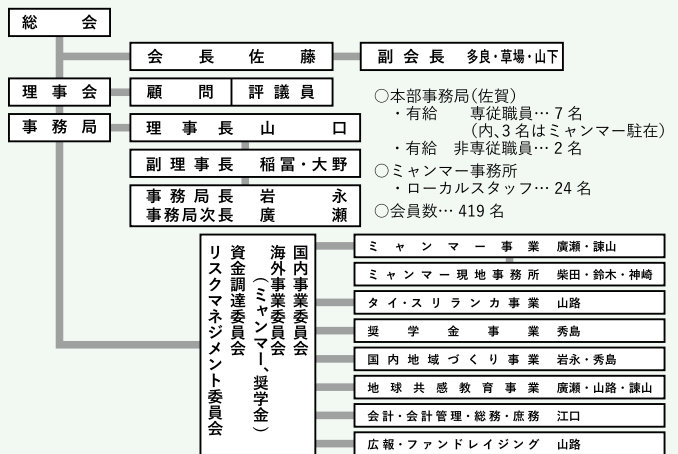
北海道地球市民の会／地球市民の会東京／地球市民ACTかながわ／地球市民の会ぎふ／地球市民みえの会／神戸戸有頂天倶楽部／愛媛地球市民の会／北九州地球市民の会／地球市民の会福岡／(一社)アイ・オー・イー／(一社)和スポーツさが／(一社)ユニバーサル人材開発研究所／(同)葉隠／(社)釜山韓日文化交流協会／グリーンヒル

## 【地球市民の会35年の歴史】

- 1973年 「佐賀フランス研究会」設立(地球市民の会の前身)
- 1980年 「古賀英語道場・佐賀日仏文化会館」設立
- 1983年 「地球市民の会」設立
- 1986年 第1回小さな地球計画開始
- 1987年 日タイ協力事業開始
- 1988年 日韓交流プログラム「かちがらす計画」開始
- 1990年 地球市民奨学金開始
- 1992年 人間の持つべき文明「テラアビール」発表
- 1993年 地球共感シンポジウム、アジア太平洋協力会議 実施
- 1995年 地球市民運動全国会議実施、スリランカ協力事業開始
- 2002年 NPO法人格取得
- 2003年 ミャンマープロジェクト開始
- 2008年 創始者 古賀武夫 逝去
- 2009年 人間の持つべき文明 2009「テラアビール 2009」提唱
- 2009年 佐賀市中山間地域づくり事業開始
- 2010年 国税庁より認定NPOとして認定
- 2011年 ASC2008認証
- 2011年 東日本大震災復興支援事業開始
- 2013年 創立30周年記念・北澤氏講演会
- 2015年 ASC2012認証
- 2016年 平成28年熊本地震支援事業開始
- 2017年 非営利組織評価認証
- 2017年 タイ地球市民奨学金終了
- 2018年 地球を翔た異風者 古賀武夫伝 出版



## 【組織図】※2019年度



## 【役員】

- 永久名誉会長 古賀 武夫
- 名誉会長 山口 祥義 佐賀県知事  
名誉副会長 秀島 敏行 佐賀市市長  
顧問 井戸 敏三 兵庫県知事  
顧問 稲田 繁生  
顧問 今村 雅弘 衆議院議員  
顧問 大草 秀幸 企画工房リプロ代表  
顧問 大串 博志 衆議院議員  
顧問 小原 健史 樹和多屋別荘会長  
顧問 小山 高生 脚本家/大阪芸術大学教授  
顧問 坂井 学 衆議院議員  
顧問 薩摩 和男 樹美々卯社長  
顧問 三遊亭園歌 落語家  
顧問 上甲 晃志 ネットワーク代表  
顧問 中尾清一郎 樹佐賀新聞社代表取締役社長  
顧問 古川 康 衆議院議員  
顧問 宮崎 耕治 国立大学法人佐賀大学学長  
顧問 原口 一博 衆議院議員  
顧問 平湯 慎介 平湯コーポレーション代表取締役社長  
顧問 福岡 資彦 参議院議員  
顧問 マリカフイニ 株式会社 エムキューブインターナショナル  
顧問 牟田 清敏 牟田法律事務所弁護士  
顧問 山下 雄平 参議院議員  
顧問 松村美由紀 佐賀県地域交流部国際課課長  
評議員 青柳 達也 株式会社 LbE Japan  
評議員 有岡 大介 樹サガテレビ 部次長  
評議員 嶋丹谷清和 TUマネジメント株式会社 代表取締役  
評議員 大島 隆  
評議員 小松 敏正 小松商店 金属部代表  
評議員 副島 正幸 潮音寺住職  
評議員 高橋 良輔 青山学院大学 地球社会共生学部教授  
評議員 田島 広一 田島興産株式会社代表取締役  
評議員 平野 幸喜 NPO法人れんげ国際ボランティア会ミャンマープロジェクトディレクター  
評議員 深川 千幹 佐賀市立川副中学校 校長  
評議員 藤 雅仁 株式会社七浦/道の駅鹿島統括部長/事務局長  
評議員 前田 英彦 長崎県松浦市役所  
評議員 満岡 聡 満岡内科消化器科医院院長  
評議員 峰 悦男 峰公認会計士事務所代表  
評議員 宮地 大治 樹佐賀電算センター代表取締役社長  
評議員 百生詩緒子 JICA-OCCADEP 総括  
評議員 古賀 大之 一般社団法人和スポーツクラブさが理事長  
会長 佐藤 昭二 一般社団法人ふる里再生協会専務理事  
副会長 多良 淳二 一般財団法人佐賀銀行文化財団事務局長  
副会長 山下 雄司 (株)サガプリンティング専務取締役  
副会長 草場 一壽 今心工房陶彩画家  
理事長 山口 久臣 一般社団法人アイ・オー・イー代表理事  
副理事長 大野 博之 一般社団法人ユニバーサル人材開発研究所代表理事  
副理事長 稲富 正人 佐賀県人事委員会事務局長  
理事 五十嵐 勉 国立大学法人佐賀大学全学教育機構教授  
理事 泉 万里江 佐賀女子短期大学コーディネーター  
理事 柴田 京子 認定NPO法人地球市民の会ミャンマー国代表  
理事(兼任) 多良 淳二 一般財団法人佐賀銀行文化財団事務局長  
理事 田中 啓之 佐賀県県民環境部県民協働課主査  
理事 鶴田さゆり 佐賀県地域交流部国際課副主査  
理事 土井 敏弘 みどりや茶舗代表  
理事 成尾 雅貴  
理事 西村 一守 ProduceOfficeNishimuraPON代表  
理事 西村 尚子 ステンドグラス工房ガラスパレット主幹  
理事 古川久美子 一般社団法人文化・芸術の泉 アル・フォンテ代表理事  
理事 増田 誠司 (株)増屋代表取締役  
理事 八田 康博 (株)ワーズコーポレーション  
理事(兼任) 山下 雄司 (株)サガプリンティング専務取締役  
監事 田中 進 (株)佐賀電算センター代表取締役会長  
監事 小原 嘉文 嬉野温泉観光樹代表取締役社長



## 支援者の方々からの声

地球市民の会の活動は、ご寄付や会費をしていただく支援者さんと、活動を支えていただくボランティアさんのおかげで支えられています。本当にありがとうございます。支援者さんとボランティアさんからの声をご紹介します。

【支援者さん】

### 新ヶ江一男さん(71)

地球市民の会の活動に関わり始めたのは、スリランカからの学生招へいが始まったころ（2012年）でしょうか。スリランカ事業を始めたニシャンタ（当会の現地協力者）とは留学生のころから知り合いました。仕事で2年半、スリランカに住んでいたこともあり、現地から来る子どもたちと交流したいと思い、参加するようになりました。

地球市民の会の良さは、奨学金の学生たちに会いに行けること。スリランカには住んでいたこともあり、サンガミッタ校には会いに行っていましたし、タイ・ウドンタニにも遊びに行きました。それは、現地に、子どもたちの面倒を見ている、しっかりとした協力者がいるから。子どもたちの顔が見えるからこそ、支援ができていると思います。



【支援者さん】

### 藤田佳典さん(43)ご家族

PTA活動で大野氏（当会副理事長）と知り合い、地球市民の会の存在や活動内容を知りました。さとおや（ミャンマー・タンボジ奨学金）をはじめに、スリランカ招聘事業でのホストファミリー、サワディー佐賀のタイフェスティバルでの出店ボランティアやタイ料理教室に参加しました。里子とは直接会えていませんが、手紙のやり取りもでき、ホストファミリーでは異言語、異文化のコミュニケーションが取れたのが楽しかったし、とても良い経験です。2歳の息子が、いまだに写真や動画を見ては「サンドニ」（来日したスリランカ学生の名前）と呼んでいます。家族皆彼女とはSNSで繋がっており、再会できる日を楽しみにしています。



【ボランティアさん】

### 松林さんチーム

(松林久美子さん、石井津智子さん、真子ハマヨさん、吉原弘子さん)

もともと、高齢者大学（現ゆめさが大学）に通っていたときに、大野さん（現当会副理事長）の話聞いたのをきっかけに、月2回のボランティアを始めました。いろんな人から寄付をいただいた古着の仕分け作業や、佐賀市のエコマーケットへの出店（毎月第3日曜日）を手伝っています。

一番の楽しみは、皆さんで集まってべちゃくちゃとおしゃべりをしながら作業をすること。お茶菓子を持ち寄ってね（笑）。ご近所の人と会っても、なかなかゆっくりはお話ができませぬからね。大したことはできませんが、みんなで楽しみながらボランティアができたらと思います。



## いろいろなご支援を紹介

地球市民の会は皆様のご寄付によって支えられ、活動ができています。

会員、ご寄付、ふるさと納税、ボランティアなど、様々な方法で皆様のご協力を募っております。

### 地球市民の会の活動全般を支える

正会員	月1,000円 (年12,000円)
学生会員	月 500円 (年 6,000円)
購読会員	月 250円 (年 3,000円)
賛助寄付会員	月1,000円 (年12,000円)
団体賛助寄付会員	月5,000円 (年60,000円)
特別賛助寄付会員	月5,000円 (年60,000円)



### 地球市民サポーター

地球市民の会のミャンマー、タイ、日本国内の事業を月単位で応援いただけるマンスリー制度です。詳しくはQRコードのリンク先をご覧ください。



○認定NPO法人へのご寄付は寄付控除の対象です。正会員・学生会員・購読会員会費は対象外です。

### 国内の活動(国際交流、イベントなど)を支える

#### ふるさと納税

ふるさと納税を使ってNPOを支援できるのは佐賀県だけ！ 社会貢献をしながらお得に寄付ができる仕組みです。

ふるさと納税 地球市民の会 **検索**

#### 遺贈寄付

遺言に基づき、亡くなった方の財産の一部や全部を寄付することを「遺贈」と言います。人生最期の社会貢献のお手伝いをさせていただきます。



## 奨学金

「さとおやさん」となっていただき、一対一もしくは複数で一人の奨学生を支えていただきます。奨学生からは手紙も届きます。さとおや会費は寄付控除の対象となります。

ミャンマーのタンボジ奨学金(月1000円～)とシャン奨学金(2000円～)、スリランカ・シショダヤ奨学金(月1000円～)、奨学金事業全体をご支援いただく奨学金サポーター(お好きな額をお好きな時期に)の4種類がございます。

## 物品寄付

ご寄付をいただいた商品は販売したり、愛好家の方買い取っていただくなどして換金し、子どもたちの教育のために使います。

### ・古着(ブランド品)

古着は、エコマーケットやバザーで販売するほか、ブランド品(洋服やバックなど)は買取サービス「Brand Pledge」を通じてご寄付いただけます。

Brand Pledge 地球市民の会 [検索](#)

### ・お宝エイド

貴金属やカメラなど自宅に眠るお宝商品を査定して、査定額に10%を上乗せした額が、アジアの子どもたちの奨学金支援に繋がります。

お宝エイド 地球市民の会 [検索](#)

### ・古切手、書き損じはがき

当会では、未使用の切手・消印のある使用済み切手や、余った年賀状や印刷間違えで出せないはがきを募っております。

## Syncableバースデードネーション

スタッフの誕生日に合わせて寄付を募る仕組み。寄付の使い道は毎回異なります。

2018年度は2回実施し、ミャンマーの子どもたちの奨学金にご寄付をいただきました。

Syncable バースデードネーション [検索](#)



## ボランティアで活動を支える

平日、事務所での事務作業や切手の仕分け、イベントのお手伝いなどを募集しております。

学生からシニア世代まで幅広い方々にお越しいただいております。

来られる日に来て、数時間でもボランティアする形と長期間でボランティアを行うインターンも受け付けております。



TERRA PEOPLE ASSOCIATION

## 認定NPO法人 地球市民の会

〒840-0822 佐賀県佐賀市高木町 3-10

※業務時間 / 土・日・祝を除く 9:00～17:30

TEL : 0952-24-3334 / FAX : 0952-26-4922

E-mail : [office@terrapeople.or.jp](mailto:office@terrapeople.or.jp)

Website : <http://terrapeople.or.jp/>



地球市民の会



@tpasaga



chikyushiminnokai